



平成28年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年12月11日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 サンオータス  
 コード番号 7623 URL <http://www.sunautas.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成27年12月14日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 北野 俊  
 (氏名) 古川 晴男

TEL 045-473-1211

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年4月期第2四半期の連結業績(平成27年5月1日～平成27年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年4月期第2四半期	16,409	△15.2	△169	—	△151	—	△127	—
27年4月期第2四半期	19,341	0.4	△338	—	△326	—	△294	—

(注) 包括利益 28年4月期第2四半期 △141百万円 (—%) 27年4月期第2四半期 △293百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年4月期第2四半期	△40.60	—
27年4月期第2四半期	△93.93	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
28年4月期第2四半期	14,126		3,105		22.0	
27年4月期	14,775		3,278		22.2	

(参考) 自己資本 28年4月期第2四半期 3,102百万円 27年4月期 3,275百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年4月期	—	0.00	—	10.00	10.00
28年4月期	—	0.00	—	—	—
28年4月期(予想)	—	—	—	12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年4月期の連結業績予想(平成27年5月1日～平成28年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	34,000	△9.9	150	—	200	—	140	—	44.68	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年4月期2Q	3,230,500 株	27年4月期	3,230,500 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年4月期2Q	97,964 株	27年4月期	97,911 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年4月期2Q	3,132,556 株	27年4月期2Q	3,133,648 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続きの対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による財政・金融政策を背景に、企業収益と雇用情勢が改善するなど、景気は緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、消費増税後の個人消費は依然として回復に弱さがみられるほか、中国やその他新興国の景気減速や米国の金融政策の影響が懸念され、先行き不透明な状況で推移しております。

石油製品販売業界におきましては、ハイブリッド車をはじめとする低燃費車の普及が進むなか、原油価格の下落によるガソリンなどの販売価格が低下したこともあり、燃料油全体の需要は前年並みで推移しました。自動車販売業界におきましては、4月からのエコカー減税の厳格化や軽自動車税の増税が影響したこともあり、全国の新車販売台数は前年同期と比べ5.3%減少いたしました。

このような状況の下、当社グループ事業につきましては、輸入車販売における新型車の投入効果と原油価格の下落から石油製品価格が低下したものの、消費増税と円安に伴う物価上昇の影響から消費者の節約・低価格志向は根強く、販売価格による顧客獲得競争の激化が続くなど、厳しい経営環境下におかれましては。

その結果、売上高は16,409百万円（前年同四半期比2,932百万円減収、15.2%減少）、営業損失169百万円（前年同四半期は338百万円の営業損失）、経常損失151百万円（前年同四半期は326百万円の経常損失）を計上し、法人税等負担後の親会社株主に帰属する四半期純損失は127百万円（前年同四半期は294百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。なお、セグメント間の取引については、相殺消去前の数値によって表示しております。

## ① エネルギー事業（石油製品販売、カーケア商品販売、車検・整備）

当事業につきましては、原油価格下落に伴う燃料油価の低下と顧客獲得競争が激化するなか、SS（サービス・ステーション）は増販キャンペーンやカード発券の取り組みから燃料油販売数量が増加しました。また、環境車検はSSと連携した継続的な販売促進策の実施効果から車検予約が増加し、環境対策として手掛けている自動車エンジン清浄機器の販売も堅調に推移しました。利益面は、不採算店閉鎖の影響やSS間の販売価格競争の激化からマージンの縮小を強いられたことにより、全体としては厳しい状況となりました。

この結果、売上高は6,595百万円（前年同四半期比3,010百万円減収）、セグメント損失は87百万円（前年同四半期はセグメント損失46百万円）となりました。

## ② カービジネス事業（BMW、プジョー、フォードの輸入車正規ディーラー、オリックス・レンタカー）

当事業の輸入車ブランドにつきましては、出張展示会や大規模試乗会を積極的に開催するなど、新規ユーザーの獲得と買い替え促進策の実施効果から、新車販売はコンパクトシリーズが好調に推移し、中古車販売台数も前年同期を大きく上回りました。利益面は、主力のBMW 3シリーズがモデルチェンジを迎え、やや厳しい状況となりましたものの、全体の実績は前年同期を大きく上回るなど、消費増税の反動の影響から回復の兆しがみられることから、最大需要期を迎える次四半期以降に期待をつなぐ結果となりました。

レンタカーにつきましては、顧客獲得競争の激化と事故率低下による代車需要が減少するなか、WEBサイト予約の活用と集中予約センター開設による顧客満足度の向上から、個人および損保チャネルは受注を高めたものの、全体としては厳しい状況となりました。

この結果、売上高は9,565百万円（前年同四半期比35百万円増収）、セグメント損失は27百万円（前年同四半期はセグメント損失243百万円）となりました。

## ③ ライフサポート事業（損害保険・生命保険募集業務、訪問介護サービス、アミューズメント・カフェ）

当事業につきましては、先行投資による事業拡大を図っており、人件費・販管費などの先行負担からセグメント損失を計上いたしますが、利益面は計画を上回るペースで推移し、将来に繋がる安定収益を積み上げました。

保険部門では、来店型保険ショップ『ほけんの窓口鶴見西口フーガ2店』の移転効果と各店舗における認知活動の強化により、来店客数は大きく増加しました。また、人材育成による相談会の質の向上と提案力強化の取り組みから保険契約件数と成約率は高まり、新店舗開設に向けた人材の確保も継続して行いました。

介護部門では訪問介護による生活支援体制の強化と地域ニーズに根差した包括的なサービスを提供するため、通

所介護開設（デイサービス）を視野に入れた人材の確保と育成に努めてまいりました。

なお、当事業では平成27年10月21日に香川県高松市の商業施設「瓦町FLAG」において、ファミリーエンターテイメント型カフェ&スタジオ『Zoo Adventure（ズー・アドベンチャー）』の運営を開始しました。当店はテナント内に児童遊具施設・カフェ・スタジオを併設し、親子が集うコミュニケーションの場、イベント開催などによる情報発信の場を提供し、子育て世代を対象とした生活支援サービスの強化に取り組みます。また、当店の運営を足掛かりに他の大型商業施設への出店を順次進めてまいります。

この結果、売上高は102百万円（前年同四半期比40百万円増収）、セグメント損失は28百万円（前年同四半期はセグメント損失14百万円）となりました。

#### ④ 不動産関連事業（ビルメンテナンス業、不動産賃貸業）

当事業につきましては、安定した顧客の確保とビルメンテナンスの営業強化から空調機フィルター清掃の新規受注を獲得するなど、引き続き堅調に推移いたしました。

この結果、売上は235百万円（前年同四半期比6百万円減収）、セグメント利益は48百万円（前年同四半期はセグメント利益51百万円）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、14,126百万円と前連結会計年度末に比べ649百万円減少しました。これは主に、商品及び製品、受取手形及び売掛金等の流動資産が531百万円減少したとによるものであります。負債合計は11,020百万円と前連結会計年度末に比べ476百万円減少しました。これは流動負債が366百万円減少し、固定負債が110百万円減少したことによるものであります。純資産合計は当第2四半期連結累計期間の業績を反映し172百万円減少して3,105百万円となりました。

その結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は0.2ポイント減少して22.0%となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ18百万円減少して1,341百万円となりました。当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況と主な要因は次のとおりです。

#### （営業活動におけるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、1,436百万円（前年同四半期連結累計期間は426百万円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失134百万円及び減価償却費325百万円を計上し、棚卸資産の減少額681百万円、仕入債務の増加額171百万円及び売上債権の減少額122百万円があったこと等によるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、379百万円（前年同四半期連結累計期間は819百万円の使用）となりました。これは主に、試乗用車両を中心とした有形固定資産の取得による支出が398百万円あったこと等によるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,074百万円（前年同四半期連結累計期間は331百万円の獲得）となりました。これは主に、短期借入金649百万円減少し、長期借入金の返済による支出が204百万円、リース債務の返済による支出が174百万円あったこと等によるものであります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成27年6月19日に公表の数値を変更しておりません。なお、この連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手している情報に基づいて当社が判断したものであり、実際の業績はさまざまな要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び  
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)  
等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額  
を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更い  
たしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定  
による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方  
法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更  
を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、  
四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッ  
シュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フロー  
については、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連  
費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フロ  
ーは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方法に変更しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び  
事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点  
から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額ははありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,496,023	1,478,029
受取手形及び売掛金	1,722,662	1,613,635
商品及び製品	2,845,582	2,611,309
原材料及び貯蔵品	14,158	12,156
繰延税金資産	26,880	27,998
その他	928,708	759,764
貸倒引当金	△30,961	△31,048
流動資産合計	7,003,053	6,471,846
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,160,460	1,114,618
土地	4,147,261	4,147,261
リース資産(純額)	617,479	648,842
その他(純額)	642,288	545,164
有形固定資産合計	6,567,489	6,455,886
無形固定資産		
その他	17,855	17,451
無形固定資産合計	17,855	17,451
投資その他の資産		
投資有価証券	101,128	61,500
長期貸付金	70,400	100,688
差入保証金	614,474	590,623
繰延税金資産	106,642	128,336
その他	324,297	336,100
貸倒引当金	△29,411	△36,410
投資その他の資産合計	1,187,532	1,180,837
固定資産合計	7,772,877	7,654,176
資産合計	14,775,931	14,126,022

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,324,715	2,585,678
短期借入金	6,167,205	5,517,692
1年内返済予定の長期借入金	344,256	250,912
1年内償還予定の社債	30,000	15,000
リース債務	301,922	340,215
未払法人税等	11,206	25,275
賞与引当金	118,183	115,005
その他	734,301	815,517
流動負債合計	10,031,792	9,665,296
固定負債		
長期借入金	557,488	446,532
リース債務	360,419	356,392
繰延税金負債	14,537	2,670
役員退職慰労引当金	86,503	89,705
退職給付に係る負債	410,822	425,451
その他	35,904	34,421
固定負債合計	1,465,675	1,355,173
負債合計	11,497,467	11,020,470
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	411,250	411,250
資本剰余金	462,500	462,500
利益剰余金	2,423,469	2,264,962
自己株式	△48,949	△48,969
株主資本合計	3,248,270	3,089,742
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,352	13,054
その他の包括利益累計額合計	27,352	13,054
新株予約権	2,842	2,755
純資産合計	3,278,464	3,105,552
負債純資産合計	14,775,931	14,126,022



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)
売上高	19,341,697	16,409,568
売上原価	16,711,251	13,617,892
売上総利益	2,630,445	2,791,675
販売費及び一般管理費	2,968,650	2,960,730
営業損失(△)	△338,205	△169,054
営業外収益		
受取利息	1,076	1,021
受取配当金	983	1,006
受取手数料	36,515	33,314
保険解約返戻金	-	12,762
その他	9,284	12,059
営業外収益合計	47,859	60,164
営業外費用		
支払利息	32,065	30,388
その他	4,262	12,202
営業外費用合計	36,327	42,590
経常損失(△)	△326,673	△151,481
特別利益		
投資有価証券売却益	-	18,661
新株予約権戻入益	-	87
特別利益合計	-	18,748
特別損失		
固定資産売却損	23	35
固定資産除却損	5,667	1,786
特別損失合計	5,690	1,822
税金等調整前四半期純損失(△)	△332,364	△134,555
法人税、住民税及び事業税	7,987	20,668
法人税等調整額	△46,018	△28,042
法人税等合計	△38,031	△7,373
四半期純損失(△)	△294,332	△127,181
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△294,332	△127,181

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)
四半期純損失(△)	△294,332	△127,181
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	499	△14,297
その他の包括利益合計	499	△14,297
四半期包括利益	△293,833	△141,478
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△293,833	△141,478
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△332,364	△134,555
減価償却費	341,540	325,596
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△5,789	7,086
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,265	△3,178
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	15,291	14,629
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	4,485	3,202
受取利息及び受取配当金	△2,059	△2,028
支払利息	32,065	30,388
投資有価証券売却損益(△は益)	-	△18,661
有形固定資産売却損益(△は益)	23	35
固定資産除却損	5,667	1,786
売上債権の増減額(△は増加)	△12,562	122,616
たな卸資産の増減額(△は増加)	348,804	681,727
仕入債務の増減額(△は減少)	△15,850	171,774
未収入金の増減額(△は増加)	250,867	69,136
未払金の増減額(△は減少)	△120,840	53,091
その他	55,285	50,001
小計	565,828	1,372,650
利息及び配当金の受取額	2,059	2,028
利息の支払額	△31,627	△30,543
法人税等の支払額	△116,136	△15,094
法人税等の還付額	6,313	107,388
営業活動によるキャッシュ・フロー	426,437	1,436,428
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(△は増加)	△8	△8
有形固定資産の取得による支出	△835,459	△398,608
投資有価証券の取得による支出	△511	△525
投資有価証券の売却による収入	-	37,871
差入保証金の差入による支出	△15,107	△13,422
差入保証金の回収による収入	38,094	31,970
短期貸付金の増減額(△は増加)	1,000	△3,284
長期貸付けによる支出	-	△30,000
長期貸付金の回収による収入	6,000	7,428
その他の支出	△13,851	△11,108
投資活動によるキャッシュ・フロー	△819,844	△379,688
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	437,796	△649,513
長期借入れによる収入	350,000	-
長期借入金の返済による支出	△186,994	△204,300
社債の償還による支出	△15,000	△15,000
リース債務の返済による支出	△194,048	△174,952
配当金の支払額	△53,184	△30,956
自己株式の取得による支出	△7,113	△20
財務活動によるキャッシュ・フロー	331,455	△1,074,743
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△61,951	△18,002
現金及び現金同等物の期首残高	1,188,108	1,359,916
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,126,156	1,341,913

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年5月1日至平成26年10月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	エネルギー 事業	カービジネス 事業	ライフサポ ート事業	不動産関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,530,068	9,522,487	61,612	227,528	19,341,697	—	19,341,697
セグメント間の内部売上高 又は振替高	76,254	8,269	892	14,584	100,000	△100,000	—
計	9,606,322	9,530,756	62,504	242,113	19,441,697	△100,000	19,341,697
セグメント利益又は損失(△)	△46,064	△243,603	△14,380	51,844	△252,203	△86,002	△338,205

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△86,002千円には、セグメント間取引消去47,884千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△133,886千円が含まれております。なお、全社費用は管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成27年5月1日至平成27年10月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	エネルギー 事業	カービジネス 事業	ライフサポ ート事業	不動産関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	6,533,223	9,555,143	102,071	219,130	16,409,568	—	16,409,568
セグメント間の内部売上高 又は振替高	62,477	10,715	896	16,833	90,922	△90,922	—
計	6,595,700	9,565,858	102,967	235,963	16,500,490	△90,922	16,409,568
セグメント利益又は損失(△)	△87,509	△27,153	△28,164	48,941	△93,886	△75,168	△169,054

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△75,168千円には、セグメント間取引消去59,219千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△134,387千円が含まれております。なお、全社費用は管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。